

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害児通所支援事業所Ra:SeeSar（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和6年7月1日 ～ 令和6年7月13日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和6年7月1日 ～ 令和6年7月12日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年7月25日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	主として重症心身障害児を受け入れる事業所として、様々なニーズにお応えできるよう手厚い職員配置を行っている。	①安心した医療的ケアが受けられるよう看護職員を3名配置している。 ②介護福祉士の常勤雇用により、より安全な移乗介助や入浴支援を可能とする環境を整えている。 ③リハビリニーズに対応すべく、機能訓練担当職員を中心にリハビリメニューを標準化し日々実践している。	①看護職員加配加算取得に向け、医療的ケア児の受け入れにも対応できる看護職員人員の更なる確保を進めていく。 ②安全かつ職員の負担（腰痛等）にならないような介助方法について、研修会を計画実施していく。 ③更なるリハビリニーズに対応すべく、理学療法士等の常勤雇用が可能となるよう検討していく。
2	事業所運営並び活動内容等について、保護者様からの信頼を十分にいただいている。	保護者様との連絡手段として、口頭や電話の他に公式LINEを活用している。日々の連絡帳も公式LINEを活用し、お子さまがいきいきと活動している様子を文章だけでなく画像や映像を添付して送信することにより、活動の様子が可視化できることで共通理解に繋がっている。	お子さまがより様々な体験活動ができ、保護者様と一緒にできたことを喜び合えるよう、療育活動内容の更なる充実を図っていく。
3	情報発信力。	①活動の様子についてInstagramで毎日配信している。配信を通して重症心身障害児のことを知ってもらうことで理解を広めていきたいと考えている。 ②機関誌「らっしー通信」を毎月発行している（個人情報の取り扱いについて、写真掲載不可のご家庭には個別に機関誌を作成し配布している）。	①ホームページの更なる有効活用を検討。 ②機関誌の発行間隔を短縮する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他施設交流や障害のない子どもとの関わりが少ない。	①他施設との交流機会は何度かあるもののいずれも単発開催に終わっている。 ②新型コロナウイルス感染症等の収束が見られず、主に重症心身障害児を受け入れる事業所の特性上、慎重な対応が求められている。	①事前に事業所間での協議を行い年間事業計画に組み込む。 ②感染状況を見据えるとともに、小規模開催や感染対策を十分に行ったうえで実施に向け計画していく。
2	保護者様同志の繋がりを促進する取り組みが少ない。	①新型コロナウイルス感染症等の収束が見られず、主に重症心身障害児を受け入れる事業所の特性上、慎重な対応が求められている。 ②実施に向けた計画検討不足がある。	①感染状況を見据えるとともに、小規模開催や感染対策を十分に行ったうえで実施に向け計画していく。 ②保護者様の意向を踏まえ、年間事業計画に組み込む。
3	事業所が企画運営する研修会等の活動における準備不足。	①研修会等の開催に向けた準備不足。 ②職員の経験不足（特定の職員への負担過重）。	①早期からの全体計画の立案（活動内容・開催日時・講師との調整・収容できる参加者数・職員の役割分担・費用・地域や他事業所等への案内周知方法等）を進めていく。 ②リーダー役となる職員の育成。